第108回『わかるように伝えていますか』

香川大学　坂井　聡

大学で発達障害等あると思われる学生たちの相談がある場合にはどのような点に配慮する必要があるのかについて考えてみます。大切なのは、大学生の場合、自分の気質を受け入れるという過程を経ていないということを知った上での対応が求められることです。そして、合理的配慮を提案する際には、その気質からくる生活上の困難さを解決するための具体的な提案をしていかなければならないということです。解決するための提案をし、本人の気持ちを楽にさせ、何よりもセルフエスティームを高く維持することができるようにすることが重要なのです。

ということは、周囲で支援する人たちが、発達障害とはどのような気質を持つのかということを理解しておく必要があるでしょう。少し整理しておきたいと思います。発達障害には、代表的なものとして次のようなものがあります。自閉スペクトラム症（ＡＳＤ）、注意欠陥多動性障害（ＡＤＨＤ）、学習障害（ＬＤ）等です。

ＡＤＨＤのある人は、状況と無関係に常に多動であり、極端なくらい活動的であり、注意の集中が苦手であるということがいえます。また、予測、考えなしに直ちに行動してしまうことがあります。支援の上で重要なこととして、支援者が焦らないことと、そして、支援する際には目で見てわかるようにすること等があげられます。

自閉スペクトラム症（ＡＳＤ）については、次のような特徴があります。対人関係の苦手さ、ことばなどを使ったコミュニケーションの苦手さ、こだわり，あるいは想像力のかたよりです。ＡＳＤのある人たちは、最近多くの本を書いており、それらを読むと本人たちの困難なところと得意なところがよく分かります。人口に占めるＡＳＤの傾向のある人は、１０％くらいいるとも考えられています。支援の際に配慮することとして、目で見てわかるようにすること等が考えられます。

ＬＤのある人は、医学的には「読み・書き・計算」でつまずく人たちのことと定義されています。それに加えて、文科省では聞く・話す・推論するということも定義としてあげられています。ＬＤのある人に関わるうえで重要なことは、できたことを、相対評価するのではなく個人ない評価として褒めることです。

これら発達障害のある学生との関わりを考えるときに大切なのは、その学生が困っていることは何かを考え、その解決策を提案していくことなのです。それは、訓練だけでは発達障害の気質は克服できないからです。なぜならば、発達障害の気質は中枢神経系の発達的な特徴であり、その気質そのものを克服することはできないというより、克服する必要がないからです。しかし、注意しなければならないのは、誤解を受けやすいことです。ついつい、性格の問題として指摘されたり、親の育て方の問題であると考えられたりすることが多いからです。誤解を受けてしまうことが多い場合には、彼らの特徴が顕著に表れている場合でも、そうでない場合でも関係なく、生活するうえで困難さをもっているということになるからです。

これらの学生たちにとって最も重要なことの一つに、先にも述べたようにセルフエスティームを高めることがあげられます。自己のイメージに対して自分の価値を評価し、自分を大切にしようとする気持ちを育てることが特に重要なのです。

大学では、新しい取り組みとして、東京大学でのＤＯ－ＩＴやその学生に気質に応じた合理的な配慮に向けた動きがあげられます。合理的な配慮については、大学入試センターが、具体的な配慮の事例を示しています。これらの配慮がなされると、大学にも今後在籍する発達障害のある学生への配慮も充実してくると考えられます、またそれに伴って、カミングアウトする学生が増えることが予想され、それに対して、大学もしっかり対応していかなければならないと考えられます。

学生たちへの提案については、学生自身が自分で工夫することができるように具体的な提案をすることが大切になるでしょう。例えば、学習で言えば、講義のときの座席を考えたり、課題をする場所の工夫をしたりすること等があげられます。また、自己管理に関しては、自分のいいところを知らせること、ルーティンにすること等が考えられるでしょう。また、就寝時間を決めて、日課を守るように助言することも大切です。

支援する側が、考えなければならないのは、学生たちが大学生活にただ単に参加しただけでは不十分だということです。充実した学生生活が送れるように、環境を整えることを考えなければならないのです。そして、それは、支援者側の自己満足になっていないかどうかも振り返らなければならないでしょう。学ぶ機会を得ているのです。それゆえ、学ぶ権利を保障しなければならないからです。そのとき、排除するのではなく、教育という観点から考えることが重要であると思います。

～坂井聡先生の紹介～

（（プロフィール））

香川大学教育学部卒業　金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授。 1997 年には自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。2013 年より教授に就任。